

# けありんぐ

坂井地区医師会  
ケアセンター  
広報紙  
2014/10 秋号  
Vol. 2

## 利用者の皆様の安全のために!!

### 初期消火訓練



### 安全に避難誘導!



### ケアセンターで自衛消防訓練を実施

開催日：平成26年10月15日(水)12:45～13:30

約50名の職員及び利用者様が参加し、火災の発生を想定した、通報・初期消火・避難訓練が行われました。

当センターでは漏電による火災を想定した避難訓練を実施しました。

火災時に慎重かつ迅速な対応ができるよう、避難時の心構えを学び、個々の防災意識を高める貴重な体験となりました。

### ～「9月1日は防災の日」トピア～

1923(大正12)年9月1日に、関東大震災が起こりました。

その大惨事を忘れないため、また台風の被害の多い時期であることから、1960(昭和35)年に国土庁(国土交通省)が制定しました。

## 初白寿のお祝い



9月15日は敬老の日でしたが、それに先立ちデイサービスセンターではお祝いの会が開催されました。今年は10月に99歳(白寿)になる利用者様がおられました。当デイサービスセンターは開設して14年になりますが、白寿のお祝いは初めてとなりました。

医師会からは大嶋会長のお祝いのことば、ケアセンターからはお祝いの饅頭や記念品を贈らせていただきました。他の利



用者様方々からも祝福を受け、大変喜ばれていました。ご本人様は「ここまで長生き出来たことが嬉しいです。結婚前後に戦争に行き、時にはマラリアにかかり死ぬ

思いもしたが、無事に帰ってくる事が出来ました。感謝しています」と…。また、「今日のこの日は私自身思ってもみなかったもので、皆さんにお祝いしていただき本当に感動しました」と涙を流されていました。何人かの利用者様方々や職員も涙ぐむ姿が見られました。これからもご夫婦仲良く、お元気で過ごして下さい。

### ～白寿トピア～

99歳のお祝いは漢字の『百』から『一』を引いて『白寿』と言います。“白いちゃんちゃんこ”を着てお祝いします。

100歳のお祝いは『百寿』と書き「ももじゅ」と言い、“金または桃色のちゃんちゃんこ”を着てお祝いします。

### 長寿のお祝い

名前	数え年	ちゃんちゃんこの色
還暦	61	赤
古稀	70	紫
喜寿	77	紫
傘寿	80	紫
米寿	88	赤または黄
卒寿	90	紫
白寿	99	白
百寿	100	金または桃色



## 心に残る利用者様とのふれあい

### ～家族にも喜ばれて～

訪問看護ステーション(あわら事業所)

TEL 73-5377

わたしが体験した、ちょっといいお話を紹介します。

「看護師さん、お願いやでずーっとずーっと家に来てや。約束やざ」その方は私の目をじっと見つめ、合掌した手を何度も何度もこすり合わせながら話して下さいました。

20代初めに精神疾患を発症して30年余り、入退院を繰り返していた中、縁あって当訪問看護を利用されて約2年半が経ちました。幼少期の生活環境に起因して暗く、内向的で、表情に乏しかった彼女ではありましたが、これまでの関わりの中で、彼女自身も驚く程自分が変わったと感じたそうです。それは、最も身近にいる家族も感じていて、同居しているお母さんが「この子変わったわ。明るくなって自分からいろいろ手伝ってくれて・・・助かってるんや」と話し、別居の妹さんが「この頃、家へ帰って来るの楽しいんや。前はあんまり帰って来たくなかったけど、看護師さんに会ってお礼を言いたい」と言われていたそうです。

現在、彼女は定期的に通所施設に通い出し、訪問すると待ちきれぬように利用時の出来事を報告して下さい、安定した生活を送っています。

本人のみならず家族からも喜び、感謝していただける言葉に私自身が励まされ、力をもらっているように思われます。人を癒す立場の自分がいつの間にか癒されているという事でしょうか・・・これだから訪問看護はやめられないんです。



居宅介護支援事業所

TEL 73-8720

### ～心に残った言葉～



ケアマネジャーとしていろいろなご家族に接すると、ご家族からの一言にハッとさせられる事があります。そんな経験を紹介したいと思います。

脳梗塞で自力では動けず、全く意思疎通ができない状態の女性の方を担当させていただいたときの事です。ご主人、娘さんたちは、献身的に介護しておられましたが、娘さんの一人がおっしゃった言葉に、「母が生きてくれるだけで十分なんです。母の顔を剃り髪を梳きながら、母には、子供たちの事 私自身の事いろいろなことを話しかけています。母がそこにいて、聞いてもらうことで私たち随分救われています」別の娘さんが「心配した親戚が、母を施設に預けたらと言います。でも、ここは母の家なんです。母がいないといけないんです。私たちの介護では不十分かもしれませんが、私たちが母にいて欲しいんです」と・・・フルタイムで働く娘さんに代わって日中は訪問看護と訪問介護、デイサービス、時々ショートサービスのサービスを利用されていましたが、夜や週末は、娘さんたちだけで食事や排せつのケアを全面的に行い、大変な介護だったと思います。在宅介護を続けていくご家族の強い思いや、家族の愛情を強く感じる言葉でした。

私の心にいつまでも残る言葉

「母が生きてくれるだけで十分なんです」

「ここは母の家なんです。母がいないといけないんです」

私たちが在宅介護をサポートするものはこの思いに応えていきたいと思っています。



## ～介護の思い～

ヘルパーステーション(訪問介護事業所)

TEL 73-8390

日々、訪問させていただく中で、利用者様よりたくさんの感謝の言葉や笑顔をいただいています。私たちの方が、人生における先輩である利用者様より、古き良き時代のためになる話やご苦労話に勇気もらい、知らなかった知識などを教えていただくこともあり、感謝しています。スタッフそれぞれの心に残る「思い」を少し紹介させていただきます。

\*介護ケアを受け入れることが拒否的な利用者様でありましたが、ある時、自分で介助なしでやってみようではないかと思い、声をかけたところ、うまくいったケースがあり、「自分でしたい」気持ちの大事さに気づき、できないことだけ介助して、見守ることの大事さに改めて気づきました。

\*終末期の利用者様で、当初は声かけにもうなずき、首ふり動作のみでしたが、変わらぬ声かけをずっと続けるうちに、「おはよう」のあいさつや自分から訴えるようになり、笑顔も出て、すごく嬉しかったです。

\*買い物代行にてお金を預かるとき「〇〇さんにしか、お金渡せない・・・」と言われ、信頼されていることを実感しました。

\*「～料理上手やの 美味しいわ」と笑顔で全部食べていただいたとき嬉しく思いました。

\*「聞き上手やで、いっぱい話したわ・・・また話聞いて」

などなど・・・語れば尽きませんが、これからも利用者様に、「安心して暮らしていけるようお手伝いします」というわたしたちの思いが伝わるように、携わっていきたいと思います。



## ～秋の遠足～

デイサービスセンター (通所介護事業所)

TEL 73-8710



デイサービスセンターでは毎年秋に『遠足』を企画しています。今までに、東尋坊・成田山・武生菊人形・永平寺・竹人形の里・・・など福井県の名所巡りを行ってきました。利用者様は、普段は自宅で遠出の外出の機会も少なくなってきました。歩けない方は勿論、歩行に自信のない方もこの日だけは楽に車椅子を使用いただき、疲れが残らないように出掛けています。

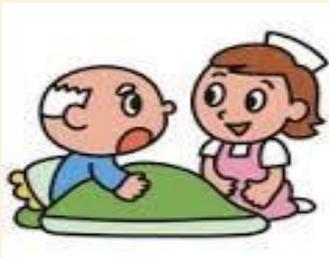
「福井県に住んでいるのに初めて来た。いっぺん来てみたかったんや！」と喜ばれたり、永平寺では、雲水さんに境内を案内していただき、ありがたいお話を聞き涙を流しながら感動されていました。職員もそれを見て胸が熱くなりました。

今年は加賀市の方へ九谷絵付け体験に出掛け、帰りはお菓子城加賀藩でのショッピングを楽しめました。作品づくりをされた時は「自分で作ったコーヒーカップでコーヒーを飲むことを楽しみにしているんや！」とか「このお皿で食べたらおいしだろうな」と話され、出来上がりを楽しみにしていっぱい嬉しかったです。

『遠足』はお天気模様や、訪れる場所に危険なところがないか、段差がなく車いすでも移動ができ、大きい洋室トイレなどの設備が整っているかなど、いろいろな気づきがあります。皆さんの楽しく、うれしそうな笑顔を見ると、来年もまた、少しでも多くの方に楽しんでもらうため頑張ろうと思います。



皆さん！ぜひ参加してください。



自宅療養のために退院し訪問看護を開始したKさんは、退院してすぐは寝て過ごすことが多く、体力低下で起き上がることもままならない状態でした。

訪問時にリハビリを行い、初めはすぐに疲れてしまいましたが、Kさんは、持ち前の真面目さで意欲的に取り組まれていました。ひとりでもできそうな運動を、日課にして練習されていました。1週間後に訪問すると「毎日こんな運動やってるんだ」と実演して見せて下さるので、「わあ！先週より足が高く上がるようになりましたね。座ってられる時間も増えたと、頑張ってますね」と褒めると、嬉しそうに笑った顔が印象的でした。

ある日訪問すると、Kさんはシャキッと背筋を伸ばして座っており、「今日は看護師さんが来る日だと思って、朝からひげ剃って待ってたんや。来てくれる日を楽しみにしてる」と笑顔で迎えてくれました。その後も、訪問するたびに「今日もひげ剃って待ってた」「来てくれると思うと、張り合いがある」など、訪問を心待ちにしているという言葉いただきました。Kさんの奥様も「毎日きちんとひげを剃って、身だしなみは気にしていた人だから、元気な時のお父さんに戻ったみたい」と嬉しそうにされていました。

このように、「この前よりもできるようになっている」「体が軽く感じる」など成果を実感できたり、「自分を訪ねて来てくれる人がいる」「一緒に頑張ってくれる人がいる」と感じることで、療養生活に張りが生まれ、「その人らしさ」を取り戻すことができるんだ、と感じた関わりでした。

また、私たちも、Kさんのように訪問を心待ちにして下さる利用者様に支えられ、楽しく働くことができるのだと実感しています。

### 坂井地区医師会ケアセンター研修会を開催

日時：平成26年11月21日(金) 17:45～18:45

会場：坂井地区医師会館 3階 大会議室

福井大学医学部附属病院 認知症看護認定看護師 中村 巳早都 先生を講師にお迎えして、「認知症 ～認知症の方の見せる姿の接し方～」という内容で研修が行われますので、多数のご参加お待ちしております。



### 坂井地区在宅ケアネット研修会

日時：平成26年11月8日(土) 18:00～19:30

会場：坂井地域交流センター「いねす」

演題：終末期における倫理的課題とDNAR(蘇生不要)

東京大学大学院 医学系研究科 医療倫理学分野客員研究員 箕岡 真子 先生を講師にお迎えいたします。「蘇生不要」とは人生の最期にどのような意味と影響を与えるのだろうか？多くの方のご参加をお待ちしております。



### 職員採用の案内

訪問看護師・訪問介護士

を募集しております!!

お問い合わせは

坂井地区医師会事務局まで

☎ 73-5366



### ワンポイントアドバイス

#### インフルエンザを予防するためのポイント

- ・人ごみを避け、ウイルスを寄せ付けないようにしましょう。
- ・ウイルスは乾燥を好むので、適度な温度、湿度を保ちましょう。
- ・外出後の手洗い、うがいによりのどの乾燥を防ぎます。
- ・マスクの着用は、他人への感染も防ぎます。



#### ～編集後記～

今回の広報紙は、各事業所から『心に残る利用者様とのふれあい』をテーマに利用者様との心に残った様々なエピソードをご紹介いたしました。職員それぞれ、日々、利用者様からたくさんのお話を学び、元気をいただいているんだなあ・・・と、あらためて感じました。(塚本)

